

そわにえ  
**Soigner**



第9号

「Soigner (ソワニエ)」とは、  
「世話をする・手当てする」という意味の  
フランス語です。

2007年4月20日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)  
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17  
社団法人東京都看護協会内  
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX /

- |             |                 |
|-------------|-----------------|
| さんぼみち……………① | ステーション紹介…⑤      |
| 1日体験研修報告…②  | Bible・My Life…⑥ |
| ブロック会報告…③   | PDNから……………⑦     |
| 委員会報告……………④ | 編集後記他……………⑧     |



『海と桜(熱川温泉)』 練馬区 磯村豊三さん撮影

**サイズとニーズにあった車いす選定を**

ラックヘルスケア株式会社 車いすユニット  
営業部 東日本営業課 中村 研司



北欧を中心とするヨーロッパから福祉機器を輸入する会社に入社して早7年。仕事柄在宅や施設を訪問して車いすの調整やセッティングを行うことが多いのですが、ご相談をいただくケースはたいがい利用者が車いすからずり落ちる・斜めに傾いて座る・お尻や腰が痛いなどなんらかの問題を抱えています。訪問して状況を確認すると原因を見つけることはそれほど難しくありません。利用者のサイズとニーズに車いすが合っていないのです。ぶかぶかの靴を履いて歩けば歩きにくいだけでなく靴ずれが起きますし、ハイヒールやサンダルで登山をする人もいません。サイズとニーズに合わない車いすが先述のような問題を起すだけでなく、ADLに制限を加えたり長期的には脊柱の変形や関節拘縮・褥創などの二次障害につながるといわれています。寝たきりの弊害が広く認識されて座って過ごす時間が長くなったことを考えるための環境を整備する必要性が高まっていると言えます。

しかし、「車いす＝移動のための道具⇒ひとを運ぶ運搬車」という認識がまだまだ一般的なようですし、医療現場で利用されている車いすも大半がその領域にとどまっているのが現実です。一時的な運搬のための道具に長時間座ること自体に

ミスマッチがあり問題を生み出す原因となります。そこで、是非知っていただきたいのが「車いす＝ADL向上のための道具⇒自立のための道具」という考え方です。どうして車いすが自立に役立つのか？それは座ることに使っていたユーザーの残存機能をADL向上に振り分けるということで実現します。座るということ、特に長時間動くことなく座り続けるということは我々が認識している以上にエネルギーを消費します。お年寄りや障害をお持ちの方はなおさらでしょう。健側の手でアームレストを握っている(しがみついている?)片麻痺ユーザーなどは顕著な例と言えます。からだが麻痺側に倒れないよう貴重な残存機能を使って姿勢を保とうとしています。適正に調整され、からだを支える機能のある車いすを利用することでこの手がフリーになる可能性があります。きっと生活が大きく変わるはずです。

車いすに限ったことではありません。選定した福祉機器は利用者のサイズとニーズに合っていますか？その機器は利用者の自立支援にどんな可能性を提供できましたか？再検討のきっかけとなれば幸いです。

